

ちりめん街道

ちりめん街道は、この地域で盛んなちりめん産業にちなんで名付けられた歴史的に重要な商業と流通の中心地でした。このちりめんは特殊な技法で織られており、京都で企業秘密の技術を学んだ3人の男性が1722年にこの地域に伝えたとされています。そしてちりめん街道はすぐに賑やかな商業の中心地となり、町は大きく成長しました。

このちりめん街道は元は城下町のため、道はジグザグの形になっています。この構造は、侵攻してくる敵の勢いを落とし、混乱させることを目的としています。当時はまだ車が無かったにもかかわらず、この通りの幅が非常に広い事は、人の往来が非常に激しかったことの証拠とも言えます。

ちりめん街道に並ぶ260棟の建物のうち、約120棟は江戸時代（1603年～1867年）、明治時代（1868年～1912年）、大正時代（1912年～1926年）、昭和初期（1926年～1945年）の建築となっています。このちりめん街道は、2005年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

1890年に建てられ1933年に再建された井筒屋は、現在でもちりめん街道で営業している唯一の旅館です。また1863年に絹商家の住居兼店舗として建てられた旧尾藤家住宅は、現在一般に公開されています。また旧加悦町役場庁舎は、北丹後地震後の1929年に建てられた、洋風建築の一例となる建築物です。ちりめん街道の通りを散歩しながら、現在でも操業しているちりめん工場で、織機のうごく音に耳をすましてみましょう。